



## LEADERSHIP PREP MANUAL

リーダーシップ準備マニュアル

1623 W. Jackson Street

Muncie, IN 47303

Tel. 765-281-0600

Fax 765-288-1297

E-mail [info@seidiving.org](mailto:info@seidiving.org)

[www.seidiving.org](http://www.seidiving.org)

SEI Diving, Japan

翻訳：安永周二

Copyright © 2008 by SEI Diving

All rights reserved. Except for use in a review, the reproduction or utilization of this work in any form or by any electronic, mechanical, or other means, now known or hereafter invented, including xerography, photocopying, and recording, and in any information storage and retrieval system, is forbidden without the written permission.

Printed in the United States of America

## 内容

SEI Diving について  
SEIインストラクターの倫理実践  
リーダーシップ・フローチャート

### プログラム目標

ダイブマスター  
アシスタント・インストラクター  
インストラクター/クロスオーバー  
スペシャリティ・インストラクター

### 受講資格

### スキル準備および必要条件

### 教える方法の学習

オーラル・プレゼンテーション・ガイド  
クラスルーム・オーラル・プレゼンテーション評価ガイド  
プール・オーラル・プレゼンテーション評価ガイド  
オープン・ウォーター評価ガイド  
オープン・ウォーター・ブリーフィングの最小の内容  
15分および30分のサンプル講義トピックス

### 典型的なトレーニング・プロGRESS

## SCUBA EDUCATORS INTERNATIONAL について (SEI Diving)

あなたはレクリエーションのスクーバ・ダイバーとして、水中の新しい世界を経験しました。あなたがリーダーになることにより、多くの人々に私たちのスポーツのすばらしさを伝達する役割を担うことは価値のあることだと思います。この「リーダーシップ準備マニュアル」は、SEIダイビングの指導プログラムに参加することを望むレクリエーション・スクーバ・ダイバーのためのガイドとして設計されています。このマニュアルには、SEIリーダーシップの各レベルのアウトラインおよび各レベルの資格を得るために必要な必要条件を概説しています。

リーダーシップ・トレーニングのどのレベルがあなたに適合するか、あなたが決めることができるように、各認定の目的、目標および必要条件が記述されています。スタディー・ガイドは、リーダーシップ・インスティテュートに参加する前に、あなたの準備が可能になるようデザインされています。

SEIダイビングは、いかなるプログラムの中でも、身体に障害を持った人々に対する差別を許しません。SEIダイビングは、積極的に彼らの能力を最大限に活用してスキンとスクーバのプログラムに参加するように激励することをSEIのポリシーにしています。

リーダーシップ・プログラムのどのレベルがあなたのゴールと一致するかを決定するまえに、「典型的なトレーニング・プログレス」と「更新、保険および再認定条件」についてのセクションに特に注意を払いこのマニュアルを通読してください。インストラクターとして認定されるべき条件である責任賠償保険がこの選択に影響を与えるかもしれません。

この資料を読んだ後に、SEIインストラクターまたはSEIオフィスに連絡を取り、リーダーシップ・プログラムに参加するための詳細を得てください。

SEIダイビングへようこそ

## スクーバ・エデュケーターズ・インターナショナル リーダーシップ同意と倫理実践

SEI インストラクター、アシスタント・インストラクターおよびダイブマスターとして、次の倫理実践が期待されています：

1. 最新の「基準と手続き」に記述されているSEIプログラムの基準を維持すること。
2. スクーバ・リーダーシップ・プロフェッショナル賠償責任保険を得て維持する。保険証券の保証、条件および制限に従いSEI ダイビングをアディショナル・インシュアードとして明記すること。
3. 自分の監督下にあるダイバーや受講生の安全性と一致する行動をとること。
4. SEI および地域の指導施設の最大の利益と一致するやり方で行動すること。
5. 私がリーダーシップ（インストラクター、アシスタント・インストラクターあるいはダイブマスター）として参加するすべてのスクーバ・プログラムの中で書かれ意味されている義務をすべて果たすこと。
6. SEI リーダーとして、私は、各地域のダイビング施設でSEI の認定コースを行うときには、指導に参加したりアシストすることに同意します。
7. 適時の方法で教育のプログラム（オープン・ウォーター・トレーニングを含んで）をすべて完了すること。
8. コース終了後、6 週以内に、認定フォームと認定料を添えて申請手続きを終えること。最低 5 年間のコース・レコードを保存する。
9. 私たちの環境、特に私たちの水面下の環境を保護する重要性を認識し教えること。

---

サイン

この同意は、認定申請、更新申請時にSEI リーダーによってサインされるものとする。

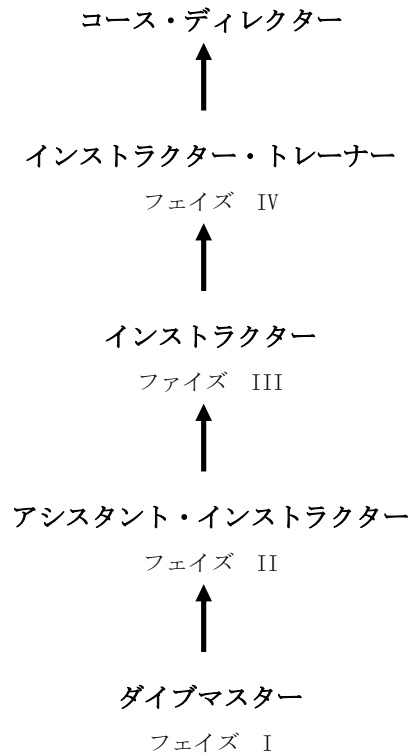
## LEADERSHIP TRAINING PROGRESSION

In

### Scuba Educators International

スクーバ・エデュケーターズ・インターナショナルにおける  
リーダーシップ・トレーニング過程

SEIインストラクターを目指すオープン・ウォーター認定ダイバーは、リーダーシップ認定を取らなければならない。それはダイブマスター（フェイズ I）から始まり、アシスタント・インストラクター（フェイズ II）に進みインストラクター（フェイズ III）へと進む過程である。認定を受けるためには、各レベルともに受講条件をクリアし、認定試験に合格しなければならない。下記の図表はこの進行を概説している。



## プログラム目的

### ダイブマスター フェイズ I

レクリエーション・スポーツとして、スクーバを楽しむ認定ダイバーのグループをオン・サイトで指導することの出来るリーダーシップである。SEI基準に則って、インストラクターの監督のもとで指導できる。ダイブマスターは、インストラクターによる評価実技修了生かファースト・ダイブの修了生のエントリー・レベルのオープン・ウォーター実技のツアーを指導する事が出来る。

ダイブマスター・コースは、クラスルーム、プール、オープン・ウォーターを含んで、少なくとも38時間である。SEIインストラクターが指導できる。クラスルームでの講義内容は、物理学、生理学、潜水医学、減圧理論、ストレスの心理学および他の多くのトピックを含む。このマニュアルは、リーダーシップ・プログラムの全体にわたり受講生に知識情報を提供している。

更新は毎年必要である。インストラクターと仕事をするダイブマスターのための責任保険が推奨されている。単独で働く場合は、保険が要求される。

### アシスタント・インストラクター フェイズ II

アシスタント・インストラクターは、インストラクターになるためのステップである。アシスタント・インストラクターは、SEI家族のためのスノーケリング・コースを指導できる。インストラクターの直接的監督のもとで、オープン・ウォータ・ダイバー・コースのクラス指導、プール指導の全ての部分を指導できる。しかし、技術評価はインストラクターが行う。技術評価と1ダイブ修了後、アシスタント・インストラクターはオープン・ウォーター・ツアーを指導できる。

アシスタント・インストラクター・プログラムで参加者に強調すべきことは、彼らがインストラクターになったとき、いかに指導し何を教えるかを示すことである。

アシスタント・インストラクター・コースのコース時間は、最小23時間とする。

更新は、毎年必要である。また、アシスタント・インストラクターのための責任保険が推奨されるが、要求されない。

### インストラクター フェイズ III

インストラクターの認定は、SCUBAダイバーの指導を認めるものである。

インストラクターは、安全潜水を指導し、SEIプログラムの基準を遵守しなければならない。インストラクターは、ダイブマスター、アシスタント・インストラクターを指導し

たり、新しいインストラクターのためのプログラムの手助けをする中で、SEIリーダーシップの発展に寄与しなければならない。

インストラクター・インスティテュートの時間は、クラスルーム、プールおよびオープンウォーター時間を含めて、少なくとも35～40時間とする。

資格の更新は毎年。また、保険の証明が毎年要求される。

### クロスオーバー・インストラクター

他団体のSCUBAインストラクターがSEIインストラクターの資格を取るためのコースである。候補者は、SEIの歴史、理念を学ぶ。インストラクター・トレーナーは、テストと評価を通じて、候補者がSEIインストラクターの資格があるかどうかを判断する。

### スペシャリティー・インストラクター

インストラクターは専門分野の1つ以上を教える資格を獲得することができる。エントリー・レベルやアドバンスド・レベルを越えた専門分野の指導プログラムである。SEIのスペシャリティー認定は次の分野が含まれる：

ドライスーツ・ダイバー

イクイップメント・サービス

アイス・ダイバー

ナイトロックス・ダイバー

探索法と回収法—パブリック・セイフティー・ダイバー

リーフ・エコロジー

ダイブ・レスキューおよび事故管理法

フルフェイス・マスク・ダイバー

水中ナビゲーション

追加の専門プログラムは、現在追加中である。

## 受講条件

リーダーシップには、各々の特定の受講条件がある。進行過程／プログレスは、インストラクター認定に向かって流れ、各レベルに追加のスキルや経験が追加される。すべてのプログラムの詳細を含んでいる S E I 基準と手続きマニュアルがダイブマスターやそれ以上のレベルのリーダーシップには必要になる。このマニュアルの次の 2 つのセクションは、参加希望の各プログラムの準備に役立つであろう。以下は「受講条件」で、他の認定条件は含んでいない。

### ダイブマスター フェイズ I

1. 年齢 18 歳以上。
2. 診断書。診断書は、スクーバ・ダイビング向けのもので、トレーニングを始める 1 年以内に作成されたもの。ダイバーレベルで使用する問診書は、受理しない。
3. 誓約書/ウエイバーを完成し署名する。
4. S E I D R A M レスキュー・ダイバー認定または認められている指導団体のスクーバ・レスキュー認定。
5. 認められている指導団体のオープン・ウォーター・ダイバーの認定
6. ダイビング経験：アドバンスド・プラス・ダイバー、または、ナイト、ナビゲーション、ディープ・ダイビング（18m 以上）、サーチ&リカバリー・ダイビングを含み 20 回以上のログがある。
7. 最新のファーストエイド資格（NSC, ARC, AHA, ASHI あるいは同等資格）
8. 最新の C P R 資格（NSC, ARC, AHA, ASHI あるいは同等資格）
9. S E I リーダーシップ認定が認められるためには、受講生は法律違反行為を行っていない、また、スクーバ・エデュケーターズ・インターナショナルあるいは他の指導団体から資格停止処分を受けていてはならない。この先行条件は、トレーニングに先立ち S E I リージョナル・リプレゼンティティブや S E I ダイビング C E O からの許可書で放棄されることもある。
10. ダイブマスターとして認定されるためには、酸素供給法の認定を受けていなければならない。
11. 最新の S E I リーダーシップ基準と手続きマニュアルを持っていること。

## アシスタント・インストラクター フェイズ II

1. 年齢 18 歳以上。
2. 診断書。診断書は、スクーバ・ダイビング向けのもので、トレーニングを始める 1 年以内に作成されたもの。ダイバーレベルで使用する問診書は、受理しない。
3. 誓約書/ウエイバーを完成し署名する。
4. DRAM レスキュー・ダイバー認定あるいは認められている指導団体のスクーバ・レスキュー認定。
5. ダイブマスター・トレーニング修了または認められている指導団体の同等の認定
6. 40 回以上のダイブログ
7. ファースト・エイド認定 (NSC、ARC、AHA、ASHI あるいは同等資格)
8. CPR 認定 (NSC、AHA、ARC、ASHI あるいは同等資格)
9. 酸素供給法 (DAN または同等資格)
10. 最新の SEI リーダーシップ基準と手続きマニュアル
11. SEI リーダーシップ認定が認められるためには、受講生は法律違反行為を行っていないではない、また、スクーバ・エデュケーターズ・インターナショナルあるいは他の指導団体から資格停止処分を受けていてはならない。この先行条件は、トレーニングに先立ち SEI リージョナル・リプレゼンティティブや SEI ダイビング CEO からの許可書で放棄されることもある。

## インストラクター フェイズ III

1. 年齢 18 歳以上。
2. エントリーレベル認定を受けてから少なくとも 1 年以上のダイビング経験がある。
3. 診断書。診断書は、スクーバ・ダイビング向けのもので、トレーニングを始める 1 年以内に作成されたもの。ダイバーレベルで使用する問診書は、受理しない。
4. 誓約書/ウエイバーを完成し署名する。
5. DRAM レスキュー・ダイバー認定あるいは認められている指導団体のスクーバ・レスキュー認定。または、DRAM レスキュー・ダイバー・クロスオーバーを修了。DRAM レスキュー・ダイバー・トレーニングをインストラクター認定のトレーニング時間に含めても良い。
6. ダイブマスター認定。ダイブマスター・トレーニングをインストラクター認定のトレーニング時間に含めても良い。

7. アシスタント・インストラクター認定またはその条件を満たしていること。
8. インストラクター・トレーニングに参加するために、インストラクター候補者は、エントリー・レベル認定から最低 60 ダイブのログが必要である。インストラクター・トレーニングが終了するまでに 100 ダイブのログを記録すること。ログが更新されるたびにログを提示すること。先行条件 60 回の潜水には、下記のリストから少なくとも 5 項目を含んでいなければならない：
  - a. 24m以上に 10 回の潜水。
  - b. フードとグローブを含むフル・ウェットスーツあるいはドライ・スーツを使用した 10 回の潜水
  - c. 最小の熱の保護(ダイブスキン等)での 10 回の潜水
  - d. 10 回のナイトダイビング
  - e. 10 回の視界不良潜水(90 c m未満の視界)
  - f. 10 回の淡水潜水
  - g. 10 回の海水潜水
  - h. 10 回の異なる海況下での潜水 (サーフ、ドリフト、カレント)
  - i. 4 種類のスペシャリティ認定
9. 以下のスクーバ指導経験の証明を提出する：
  - a. 15 時間の講義経歴
  - b. 18 時間のウォーター・ワーク指導経歴
  - c. 少なくとも 3 回のオープン・ウォーターのクラス・チェックアウトをアシストした経歴。

注： a、b、c、に関する指導経歴証明は、候補者の後援者であるインストラクターからの手紙の形、あるいは S E I アシスタント・インストラクター・コースの指導インターシップ。ある場合には、この経歴が、他の指導団体のインストラクターにより得られるかもしれない。S E I リージョナル・リプレゼンティティブや S E I ダイビング C E O からの許可書でこの条件が放棄されることもある。

10. ファースト・エイド認定 (NSC、ARC、AHA、ASHI あるいは同等資格)
11. C P R (NSC、AHA、ARC、ASHI あるいは同等資格)ヘルスケア・プロバイダー／  
プロフェッショナル・レスキューアのレベル
12. 酸素供給法 (DAN または同等資格)
13. 最新の S E I リーダーシップ基準と手続きマニュアル
14. S E I リーダーシップ認定が認められるためには、受講生は法律違反行為を行ってはいてはならない、また、スクーバ・エデュケーターズ・インターナショナルあるいは他の指導団体から資格停止処分を受けていてはならない。S E I リージョナル・リプレゼンティティブや S E I ダイビング C E O からの許可書でこの条件が放棄されることもある。

## インストラクター・クロスオーバー

1. 18歳以上。
2. 診断書。診断書は、スクーバ・ダイビング向けのもので、クロスオーバー・インスティチュートに参加する1年以内に作成されたもの。
3. 誓約書/ウエイバーを完成し署名する。
4. S E I D R A M レスキュー・ダイバーの認定
5. 指導ステータスがアクティブである他団体のインストラクターで、指導品質の苦情を持たないこと。
6. ダイビング経験、少なくとも100以上のログ潜水。
7. ファースト・エイド認定(NSC、ARC、AHA、ASHI あるいは同等資格)。
8. CPR 認定(NSC、AHA、ARC、ASHI あるいは同等資格)ヘルスケア・プロバーダー/プロフェッショナル・レスキューアのレベル。
9. 酸素供給法(DAN または同等資格)。
10. S E I リーダーシップ基準と手続きマニュアル
11. S E I リーダーシップ認定が認められるためには、受講生は法律違反行為を行っていないはならない、また、スクーバ・エデュケーターズ・インターナショナルあるいは他の指導団体から資格停止処分を受けていてはならない。S E I リージョナル・リプレゼンテイティブやS E I ダイビング C E Oからの許可書でこの条件が放棄されることもある。

## 必要教材

上記の先行条件に加えて、インストラクターおよびクロスオーバー・インストラクター候補者は、最新の修正を加えた次の教材を保持すること：

1. S E I オープン・ウォーター・ダイバー・インストラクター・ガイド
2. S E I ダイバー・レスキューおよび事故管理マニュアル
3. S E I リーダーシップ準備マニュアル
4. S E I ダイビング・テーブル
5. 「Diving Fundamentals for Leadership」

## スキル準備および必要条件

水中において快適であるための代替法はない。水泳能力があり、水泳に対する高いレベルの適合性があるダイバーは、任意のレベルのリーダーシップ・トレーニングでのスキル習得に、さほどの困難は感じないであろう。エントリー・レベルやアドバンスド・スクーバ・コースに要求されるのは、普通の泳ぐ技術だけである。高いレベルの水泳能力を期待されているリーダーシップ候補者は、リーダーシップ・スキル条件を準備するために、地域の水泳施設の上級クラスの水泳教室に参加することも考えられる。

DRAM レスキュー・ダイバー・トレーニングにも繋がる水泳スキルのトレーニングとして、ライフガード・トレーニングが推奨される。最小 300mの距離は泳ぐようにしておくべきである。

すべての受講生は、技術レベルにかかわらず、インスティテュート・セッションの前にこのセクションに掲げられている各スキルを練習するように助言する。

### 目的と論理的根拠

SEI ダイビング・リーダーは、教えるクラスに要求されているプール・スキル・レベルは持っているべきである。リーダーは、スキルに熟練していて、水中において快適であるべきである。ここに示されているスキルは、快適さやスキル・レベルを増強するであろう。

### ダイブマスター プール・スキル・テスト

1. スクーバ装備の正しいアセンブリー
2. 水泳 400m
3. ジャイアント・ストライド・エントリーをデモできる
4. 水面で次のことができる:
  - a. スクーバ・ユニットの脱着
  - b. ウェイト・システムの脱着
  - c. レギュレーターとスノーケルの交換
  - d. スクーバ全装備で、スノーケルを使い水面を 100m泳ぐ
5. 手にフィンを持ちマスクを正し位置に梯子を使用してプールから出水 (ポート・シミュレーション)

6. 水にエントリーをして、スクーバを装着(Bailout)
7. 水中で次のことができる:
  - a. スクーバ・ユニットの脱着
  - b. ウェイト・システムの脱着
  - c. レギュレータのリカバリーとクリアリング
  - d. マスクなしで水中を 50m泳ぎ、マスクを装着しマスク・クリアリング
  - e. 中性浮力を保ち、最小の運動で少なくとも 3 分間体を保持する
8. エアー切れ緊急対応を次のように正しくデモする:
  - a. バディ・ブリージングをしながら、浮上する:

スクーバ装備の 2 人のダイバーが、少なくとも 1.5 m 離れた水中にいる。  
ダイバー A は、自分のスクーバから 1 回呼吸をし、ダイバー B まで呼吸しないで泳ぐ。「エアー切れ/シェア・エアー」のサインを ダイバー B に出す。ダイバー B は、自分のプライマリー・セカンドをダイバー A に提供する。2 名でバディ・ブリージングをしながら浮上する。
  - b. オクトパス・ブリージング 100m:

スクーバ装備の 2 人のダイバーが、少なくとも 1.5 m 離れた水中にいる。  
ダイバー A は、自分のスクーバから 1 回呼吸をし、ダイバー B まで呼吸しないで泳ぐ。「エアー切れ/シェア・エアー」のサインを ダイバー B に出す。ダイバー B は、自分のプライマリー・セカンドをダイバー A に提供する。ダイバー B は自分のオクトパスを使う。そうして、100m 泳ぐ。
9. 水面で苦しんでいるダイバーへの援助をデモする。
10. プール・サイドの深い方へ出水する。スクーバを外し、出水し、マスク、スノーケル、フィンを着用したままで、スクーバを上げる。

注:バディ・ブリージングをシミュレートする場合、詳細は、「ポリシーと手順」を参考に。

## アシスタント・インストラクター・プール・スキル・テスト

これらの基準はアシスタント・インストラクター認定の基礎として使用される。

### スキル 1：水泳能力

400m水泳。候補者は、各種のストロークで泳ぎ、75mはバックで泳ぐ。

### スキル 2：スキン・ダイビング

プールの深い底にマスクとスノーケルを置く。フィンを付けてジャイアント・ストライド・エントリーをして、12m水面を泳ぐ。そこで、サーフェスダイブをして、12m潜泳し、マスク、スノーケルをリカバリーする。スノーケルはディスプレイメント法かブラスト法でクリアする。マスクは3/4以上排出、スノーケルは呼吸できること。

### スキル 3：SCUBA 1

全装備を手を持って、サーフェス・エントリーをする。（中性浮力を得るためにウエイトベルトははしていてもよい） エアは、エントリーの前に開けておいても良い。プールの底で全装備を付ける。そうして、50m潜泳する。深い方のプールでSCUBAを外し、スイミング・アセントのシミュレーション（プールに平行に）、そして浮上。15秒以内に、サーフェスダイブし、SCUBAのリカバリー。浮上してから、BCの空気を抜いて、水面でトレード・ウオータ5分間。受講生はウエイト・ベルトをする。スノーケルまたはレギュレーターで呼吸する。5分間終了したら、BCを口で十分膨らませ、装備を外し、出水する。（ボート・ダイビングのシミュレーション）。

### スキル 4：SCUBA 2

ジャイアント・ストライドまたはバック・ロール・エントリーで、バディ・チームで入水する。垂直に底まで潜水。エア切れのシグナルを出し、シェアリング・エアを始め。チームで、200mバディ・ブリージングをしながら泳ぐ。役割を交代して、さらに200mバディ・ブリージングをしながら泳ぐ。終了後、浮上し、階段を使って出水する。（フィンを手を持って）。時間は規定無し。

## インストラクターおよびインストラクター・クロスオーバー プール・スキル・テスト

### スキル 1：スイミング／スキンドайビング慣熟テスト

400m水泳。候補者は、各種のストロークで泳ぎ、50mはバックで泳ぐ。

400m水泳後、次に、10分間のトレード・ウォーター・フロート。休息なしに（プール・デッキに座って装備装着が認められる）、スキンドайビングの装備のみで200m泳ぐ。スキンドайビング中に、ヘッド・ファースト・ダイブとフィート・ファースト・ダイブを行い、3種類のキックで泳ぐ。

### スキル 2：スキンドайビング慣熟テスト

プールの深い底に、マスク、スノーケル、フィンを置く。ジャイアント・ストライド・エントリーをして、12m水面を泳ぐ、そしてサーフェス・ダイブをし、30秒以内に、12m平行潜水し、3点をリカバリーする。浮上したときには、マスクはクリアーされ、スノーケルで呼吸できること。

### スキル 3：SCUBA 慣熟テスト 1

全装備と手に持ってプールにエントリーする。ウエイト・ベルトは手の持つこと。全装備を装着する。浮力調節をして、50m潜泳。潜泳後、深いプール・サイドにきたら、SCUBAを外す。スイミング・アセントをしながら浮上。30秒以内に、サーフェス・ダイブをし、SCUBAをリカバリーする。BCの空気を完全に抜き、浮上し、水面でトレード・ウォーター5分間を行う。ウエイト・ベルトはつけたままで、スノーケルまたはレギュレーターも使用しない。この後、BCに口から十分な空気を入れ、水面で装備を外す。

### スキル 4：SCUBA 慣熟テスト 2

2人のダイバーでジャイアント・ストライド・エントリーをして、プールの底に潜行する。1人が「エアー切れ」の手信号を出して、バディ・ブリージングをしながら（シミュレーション）、50m泳ぐ。次に、バディー・ブリージングをしながらSCUBAギアの交換を行う。役割を交代して同じことを行う。次にオーラルまたはパワー・インフレーターを使用しながら、プールの底から、30～90cm上で、中性浮力を取る。3分間ホーパリング。3分終了後、浮上し、フィンに手を持ちマスクは所定の位置に保持し、プールから出水。

### スキル 5 : Diver Emergency 1

水底の無意識ダイバーをリカバリーする。事故者は反応が無く動かない。DRAM レスキュー・リカバリー・リフトを行って、水面まで運ぶ。水面で、浮力を確保して、2回 ゆっくり、吹き込む（レスキュー・ブリージングのシミュレーション—マウス・トウ・チークまたはチン）。そして、レスキュー・ブリージングをしながら、25m運ぶ。5秒に1回の割合で吹き込む。プールの縁で、レスキュー・ブリージングをしながら装備を完全に外す。CPRを行うためにプール・デッキに上げる。（傷害を防止するために、事故者自ら上がることもある）

注：マウス・トウ・スノーケルはオプション

### スキル 6 : Diver Emergency 2

水面で暴れているダイバーをレスキューする。救助者は事故者に水面から近ずき、安全な距離を確保して、セルフ・レスキューさせる。次に、前面で潜行し、事故者に近づき、ウエイトを外し、BCを作動させる。浮上する前に浮力確保の確認をしておく。候補生はコントロールの技術をデモンストレート出来なければならない。

### プール・スキルの評価

合格するために、受講者は概説されているスキルをすべて成功裡に終了しなければならない。万一、第1回目の試みが貧弱に終われば、時間が許す限り、受講者に再度試みる機会が与えられる。

### 点数制および評価の記述

0ポイント:受講者はスキルを終了できなかった。これには、スキン・ギヤー・リカバリー中に呼吸のために浮上した。水中スキルの最中に浮上した。バディ・ブリージングが続けられなかった。

1ポイント:受講生はスキルを終了したが、困難を伴った。困難とは、イクイップメントのコントロールを失った。水中スキルの最中に過剰なまでの動きが見られた。水中スキルの最中に浮力のコントロールを損失していた。口にレギュレーターが無いときに、口からの呼吸が見られない。

これは、ダイブマスターやアシスタント・インストラクターの合格のための最小のポイント・スコアである。

2 ポイント:受講生はスキルを容易に終了した。イクイップメントを良くコントロールしている。浮力を良くコントロールしている。口にレギュレーターが無いときには、常に口からの呼気が見られる。オープン・ウォーター・受講生に簡単にスキルをデモンストレーションすることができる。

これは、インストラクター・コースの合格のための最小のポイント・スコアである。

3 ポイント:受講生はスキルの熟達を示し、デモンストレーションの完成度も高い。あたかも入門レベルクラスにデモするかのように、各動きを、ゆっくり慎重に行なうことができる。

さらに、インストラクター／クロスオーバー中に、プール・サイド講義が与えられる。インスティテュート・ディレクターから、インスティテュートに先立って、1つのトピックが与えられ、インスティテュートの最中にもトピックが与えられる。これらのプレゼンテーションの評価は教室講義のために使用されるものと似ている基準を使用する。

より詳細は、「Diving Fundamentals for Leadership:Learning How to Teach」を参照。

## 必要とされるオープン・ウォーター・トレーニング

オープン・ウォーター・トレーニングは各レベルのリーダーシップに必要である。スキル・テストは、各レベルを追って次第に難しくなる。したがって、受講生は、コースの各々に先立って各スキルのトレーニングをするように助言されている。

### ダイブマスター

最低 5 回の潜水がダイブマスター・コースのオープン・ウォーターでは求められている。ダイブ#1 は、ダイブマスター受講生のスキル・テストを含んでる。ダイブ#2 時に、受講生は、インストラクターの「直接の監督」下のツアー潜水で、オープン・ウォーター・ダイバー受講生を指揮する。ダイブ#3、4 と 5 は多くの分野での責任を学ぶ。

これらのダイブの詳細は次のとおり：

#### ダイブ#1: スキル評価(個人のダイビング技術)

- a. イクイップメントの取り扱い、エントリー、コントロールされたディセントとアセント
- b. スクーバ装備の脱着
- c. ウェイト・システムの脱着
- d. コントロールされたディセントとアセントを行なう。中立の浮力を保つ。
- e. マスクを外し、クリアリング
- f. エアー切れダイバーに対応して、バディブリージングやオクトパス。ブリージングを行いながら浮上する
- g. マスクなし 50 m 潜泳。
- h. ライン・ハンドリング
- i. 水面下の問題解決(タンク・ストラップが緩む、物に絡む)
- j. 9 m から無意識の水中に沈んでいるダイバーを救う。
- k. 水面で暴れているダイバーを救う。

#### ダイブ#2: インストラクターの直接の監督下で、ブリーフィングとデブリーフィングを含むトレーニング・ダイブを先導する。

- a. インストラクターを支援する場合の水中におけるダイブマスターの適切な配置やポジショニングをデモする
- b. ダイブ・ツアーを先導する

#### ダイブ#3、4&5: インストラクターの直接の監督下で、次の潜水グループを監督する:

- a. ナイト・ダイブ

- b. ドリフト・ダイブ
- c. 限界視界潜水
- d. ビーチまたはショアー・ダイブ
- e. 冷水潜水（コールド・ウォーター・ダイブ）
- f. 流れの中での潜水
- g. ボート・ダイブ

これらの潜水中に、ダイブマスター候補生は次の任務を完了すること：

- (1) ダイブ・オペレーションに対する責任を負う。
- (2) 出席者リストを作成し、潜水前および潜水後に点呼をし、ダイブ・サイトから去る前にも点呼を行う。
- (3) 指定されているダイブの参加資格があるかどうか、認定証やログブックをチェックする。
- (4) ダイブ条件にあっているかどうか、ダイバーのギヤーのプレ・ダイブ・チェックを行なう。必要ならば、どこで、どのようにギヤーを積むべきか教える。
- (5) 入水時や出水時のセイフティ・ダイバーを配置する。
- (6) バディ・システムを割り当てる。
- (7) 次のトピックスをカバーして、プレ・ダイブ・ブリーフィングを(10～15分)行う：
  - (a) 水深
  - (b) 海況(視界、流れ、水温など)
  - (c) 水中の障害物
  - (d) 空気の残圧
  - (e) 必要と思われる安全手順
- (8) 潜水計画および無減圧停止限界をチェックする。
- (9) 潜降ライン、トレイル・ライン、カレント・ライン、救助ブイを含めて、安全装置を準備する。
- (10) 緊急連絡情報の準備(警察、消防署、救急車、海上保安庁／沿岸警備隊、再圧チャンバー、レスキュー部隊および病院)
- (11) ファーストエイド・キット、酸素キットを用意する。
- (12) 危険であるかもしれないときは、潜水を許可しないこと責任を負う。
- (13) 潜水を指揮する。

## アシスタント・インストラクター

スタッフ・ブリーフィングは、受講生の経験を準備をさせるダイブ・サイトで行います。何人かはその場所での潜水経験がないかもしれないので、このブリーフィングには、水中地形の詳細な記述を含む。

各候補者は、エントリー・レベルの受講生の第1回目の潜水評価を行なうスタッフ・インストラクターに割り当てられる。ツアー・ダイブをアシスタント・インストラクターに委ねる前に、エントリー・レベルの受講生は、クラス・ブリーフィングやスキル評価を含む最初のオープン・ウォーター経験を終了していることを確認しておく。

アシスタント・インストラクターの必要なオープン・ウォーター・スキルは、3つのタスク・エリアから構成されている：

1. 6mの水深で、マスクを外して、マスクを装着し、マスク・クリアリング；コントロールされたバディブリーディング・アセント（シミュレートされるかもしれない）を行う。
2. 6mの水深で、無意識のダイバーの救助シミュレーション。水面でダイバーを安定させる；15m マウスートウーマウス（スノーケル）人工呼吸をしながら曳航する。
1. スタッフから指示を受けて、プレーダイブ・ブリーフィングを行う。受講生役のインストラクターをダイバーに見立てて、ガイド潜水ツアーを行なう。

アシスタント・インストラクター 潜水ツアー・ブリーフィング計画として含むべき項目：

1. 潜水計画：
  - 方向
  - 水深
  - 潜水時間
  - 水面下の光景
2. 安全項目：
  - 耳抜き的重要性
  - ダイバーを見失ったときの手順
  - 手信号
  - リーダーの泳ぐ位置

- イクイップメントの安全点検

### 3. 潜水の目的:

- 空気消費量/適切な呼吸割合
- 浮力コントロール
- スチューデント・ダイバーの自信と自制

## インストラクター

### 候補者/受講生潜水:

インストラクター・インステイチュートのオープン・ウォーター・セクションについては、各候補者が、スキルと評価を修了するべき「受講生」の役割をし、資格のあるスタッフ・インストラクターに割り当てられる。潜水経験は次の4つのセクションを終了すること:

1. 候補者によるプレーダイブ・ブリーフィング
2. 必要なライン・スキルを指図する候補者を含む短い潜水。
3. イマージェンシーにつながる典型的な受講生のエラーに対する対応。
4. 「受講生」に与えられる潜水後のブリーフィング。

### 評価基準

3 レベルのリーダーシップ用オープン・ウォーター・トレーニング用の評価ガイドラインは、プール・テストの評価と同じ。同じポイント値(0から3)が使用される。

## 教える方法の学習

クラスに資料を提示することは、よく準備されリハーサルされてよく知っていることをインストラクターに要求する。始めて受講生の前に立つときは、多くの人は不安になるであろう。多少は神経質であることは自然である。その治療はよく準備することである。実行と経験は、さらにこのジレンマの多くを解決する助けになるでしょう。

スクーバ指導における理想的なトレーニング方法は、スクーバ・クラスの前に短い項目について教える練習をすることである。あなたのプレゼンテーションを評価してもらえらるスポンサー・インストラクターに、15分間のセグメントを割り当てもらうように依頼する。あなたの準備が十分なら、各プレゼンテーションはより容易になるであろう。さらに、クラスで教えるべき項目に関する資料の研究は、好きな主題についてのあなたの知識を増加させる優れた学習方法である。教室プレゼンテーションに加えて、プール・プレゼンテーションを練習すべきである。

リーダーシップ・トレーニングのアシスタント・インストラクター部分は、「いかに、そして何を教える」に向けられる。あなたは、2項目の15分の教室講義、2項目の短いプール・スキル・ブリーフィングそして1回のオープン・ウォーター・トレーニング・プレゼンテーションを行う。トピックはコース・ディレクターによって割り当てられる。割り当てられる可能性のあるトピックのリストは、このセクションに含まれている。

「Diving Fundamental for Leadership」の最新版を持っていないなければならない。このテキストの第15～17章に、学習過程と指導法の様々な側面が扱われている。最も重要な領域は「授業計画／指導計画」、「指導法」、「クラスを導く方法」。

インストラクターまたはクロスオーバー・インスティテュートへの参加準備として、30分間プレゼンテーション・トピックが割り当てられる。これは、適切に視覚教材を使用し、かつ最良なクラス・プレゼンテーションを準備する機会を与える。2項目の15分間講義のトピックも割り当てられる。オープン・ウォーター・サイトでの完全なブリーフィングと少なくとも2項目のプールサイド・トピックも与えられる。インストラクター・インスティテュートの準備のために、「Diving Fundamentals for Leadership」の指導法についてのセクションに精通するべきである。

コース中に示されたプールサイド・トピックは事前に割り当てられるかもしれないし、あるいはその場で割り当てられるかもしれない。それらがどのように割り当てられるかわからず、「エントリー・レベル受講生」が有効に理解し進歩することができるように、教

材を編成しなければならない。次に、各スキルは説明され、デモされ、練習し、評価されなければならない。

**導入／イントロダクション—本論—結論** のフォーマットで指導する。

評価基準および得点のガイドラインは次のページに示されている。インスティテュート・スタッフは、これらのフォーマットを使用してあなたに批評を与え、次の課題の準備を手助けする。

## オーラル・プレゼンテーション・ガイドライン

人々に学習経験を提供したり、人々とコミュニケーションを取ったりする能力は非常に重要である。ガイドラインは、あなたが明白に簡潔にコミュニケーションする手助けになるはずである。

1. レッスン・プラン／指導計画を準備する。
2. プレゼンテーションを計画し準備する。そうすれば、超過時間なしで、指導することができる。許された時間内でトピックの最も重要な側面を扱う。時間を金銭のように考えて、それを賢明に使う。
3. あなたの主題に真剣に取り組む。そうしなければ誰も真剣に取り組まないであろう。
4. よい注意ポイントは、あなたのプレゼンテーションの開始を手助けし、受講生の注意や学習の段階を整える。
5. 個人の経験に基づく少しユーモアのある短い話は、講義を強化するために使用されるべきであるが、話が重要なポイントを強調し、学習に効果がある場合に限られる。
6. 「何を話そうとしているのか、参加者に伝える—それについて参加者に話す—何を話したか参加者に話す」 導入／イントロダクション — 主題 — 結論を使用する。短いプールサイドのスピーチでもこの形式で話すこと。
7. ポイントを強調するために視覚教材を使用したり、より明白なコミュニケーションをとる方法を考える；例えば図表、黒板、絵、イクイップメントなど。話の最初に興味をつかむ視覚教材の例としては：
  - a. インストラクターが、ドライフラワーのバラの花びらが1枚入っている封筒を渡し、その一方でインストラクターは彼のトピック「ポイズン・アイビー／うるしを識別する方法」を導入しながら、参加者に花びらを探させる。  
これはぞっと人をさせるだけでなく、うるしの葉を表わすもの(バラの花びら)を提供する。
  - b. ファースト・エイドのインストラクターは水分の多いオレンジを使用して、異なるタイプの傷をデモする。カミソリは切り口を；紙やすりはすり傷を；爪は刺し傷を；ドライバーは裂傷を見せる。「出血する」オレンジは忘れがたいものであろう。

ポイントを示すために視覚教材を使用するが、決してショーにならないように。

8. よい声や中断は講義の助けになる。しかし主題に対する熱心さや知識はより大切で有効である。常に熱心であるようにしてください。あなたが主題に熱心でなければ、あなたの言うことを人々は熱心に聴こうとしないであろう。
9. 次の一般規則を思い出す:アイコンタクトを保つ、あなたの聴衆に話しかける、話を変えるときにはあなたの声を上げる、あなたが言うことは正確である、またそれをサポートする十分な準備ができている、神経症的習癖に注意する、あなたのポケットからのあなたの手を出しておく、何にももたれない、声に抑揚を付ける、あなたの文章の終わりをあやふやにしない、興味を持たせる、プレゼンテーションの最中に口の中に楊枝やガムをいれておかない。
10. 個人の外観やマナーリズムはあなたのプレゼンテーションの評判を落とすわけではない。が、プロフェッショナルとして適切な服装をすること。
11. 事実を正確に示す。用語は正確であること。また、受講生に提示された情報は立証されていなければならない。

次のページの「評価ガイド」は、あなたのプレゼンテーション中にあなたのインスティテュート・スタッフによって使用される同様の評価形式である。トピックを準備しながら、これらのポイントをチェックしておくこと。オーラル・プレゼンテーションのために使用されたあなたの教えるノートも、インスティテュート・スタッフによって評価されるであろう。少なくともコピーを2部用意しておく。

## クラスルーム・オーラル・プレゼンテーション評価ガイド

次のアウトラインは、クラスルーム・プレゼンテーションを評価するために使用される。  
各分野の下のコメントは、その分野のトップのスコアを表わす。

イントロダクション	コメント
名前と主題:	名前とプレゼンテーション始めに与えられる主題
アウトライン:	ポイントと目的のアウトラインが明白で論理的である
注意関心:	トピックに関して興味を十分に刺激される
本論と情報	
用語:	すべての用語が正確である
事実:	すべての事実が正確である
内容:	すべての内容が主題に関係がある
結論:	
要点:	すべてカバーされている
動機付け:	思い出す理由がある
構成	
ノートを使用している:	ノートに占有されず、気を逸らしていない
流れ:	論理的な流れ、良い構成
時間配分:	すべての要点の時間が適切に配置されている
時間の使用:	あたえられた時間の1分前に終了する
仕組み:	すべて容易に見ることができる
プレゼンテーション技術	
姿勢:	親しみがありリラックスできる
熱心さ:	熱心で活気づけられる
声:	力強く、多様性に富む
アイコンタクト:	全ての受講生を見ている
話し方:	歯切れの良い言葉で悪い癖は無い
トレーニング・エイドの使用:	適切なトレーニング・エイドを使用している

## プール・オーラル・プレゼンテーション評価ガイド

次のアウトラインは、プールサイド・プレゼンテーションを評価するために使用される。  
各分野の下のコメントは、その分野のトップのスコアを表わす。

### イントロダクション

### コメント

名前と主題： 名前とプレゼンテーション始めに与えられる主題  
アウトライン： ポイントと目的のアウトラインが明白で論理的である  
注意関心： トピックに関して興味を十分に刺激される

### 本論と情報

用語： すべての用語が正確である  
事実： すべての事実が正確である  
内容： すべての内容が主題に関係がある

### 結論：

要点： すべてカバーされている  
動機付け： 思い出す理由がある

### 構成

ノートを使用している： ノートに占有されず、気を逸らしていない  
流れ： 論理的な流れ、良い構成  
時間配分： すべての要点の時間が適切に配置されている  
時間の使用： あたえられた時間の1分前に終了する  
仕組み： すべて容易に見ることができる

### プレゼンテーション技術

姿勢 親しみがありリラックスできる  
熱心さ： 熱心で活気づけられる  
声： 力強く、多様性に富む  
アイコンタクト： 全ての受講生を見ている  
話し方： 歯切れの良い言葉で悪い癖は無い  
コントロールと安全性： 受講生から目を離さない。常に手の届く範囲にいる。  
アシスタントを配置し使っている。

## オープン・ウォーター評価ガイド インストラクター

次のアウトラインは、オープン・ウォーター実技の評価に使用される。  
各分野の右へのコメントは、その分野のトップのスコアを表わす。

主題	コメント
受講生を知ること:	潜在的な受講生の問題点を把握し話しかけることができる
受講生をリラックスさせる能力:	親しみのある、落ち着ける、肯定的で、熱心
クラスのコントロール:	配置が良い、バディを割り当てている、コントロールされている
プレーダイブ・プランとブリーフィング:	導入、目的をはっきりさせる、論理的な説明
デブリーフィング:	スキル、目的の達成度、スキル評価について良いこと悪いことを話す。 ログを記録する。
安全意識	
プレーダイブ:	受講生のギヤーをチェック、緊急手順の確認
潜水中:	ストレスを認識し、問題点を解決する
ポスト・ダイブ:	ストレスを認識し、問題点を解決する
緊急時への対応:	問題の広がりを防ぐ行動
姿勢、専門家かたぎ、成熟:	肯定的で、ダイビングや受講生に対し快活に接している

## オープン・ウォーター・ダイブ 候補者ブリーフィング・ガイド

これらのポイントは、オープン・ウォーター・ダイバー・クラスへのブリーフィングのための最小範囲をカバーしている。オープン・ウォーター・プレゼンテーション時にインストラクター・スタッフによって評価のポイントとして使用される。

### 潜水目的および目標

- オープン・ウォーター・トレーニングの理由
- 潜水の概観
- 潜水を楽しく、面白くすること

### 潜水計画:

- 方向
- 水深
- 潜水時間
- 水面下の光景

### 安全アイテム:

- 耳抜き的重要性
- 見失った場合の手順
- 手信号
- 潜水中の浮力のコントロール
- リーダーに対しての受講生の位置
- イクイップメントの安全点検
- 潜水事故管理計画

### デブリーフィング(潜水後の):

- 受講生は楽しんだか
- 潜水中に生じた事柄のレビュー
- 問題点を注意し修正する
- ログブックを付ける

## 講義トピックの例 15分間のプレゼンテーション

アシスタント・インストラクター・コースの候補者は少なくとも1項目の講義トピックを示す。このトピックは、事前準備のために、ディレクターによって下記のリストから割り当てられる。プレゼンテーションは10分未満であるべきではないし、15分を超過すべきでもない。追加の講義トピックはコース中に割り当てられる。

そのプレゼンテーションは、候補者学生の裁量で視覚教材やプリント類の使用を含んでいくべきである。あなたの講義アウトラインのコピーをスタッフや受講者に配る。資料はすべてエントリー・レベル・スクーバ受講生を対象に作成すること。割り当てられるトピックの例は下記のとおりである。プレゼンテーション・フォーマットでこれらのトピックについて説明し、記述し、かつ議論する準備をしておくこと：

- ボイルの法則
- ドルトンの法則および潜水との関係
- 潜水に関してのヘンリーの法則
- ハイパーベンチレーション／過換気
- エアーエンボリズム／空気栓塞症
- レギュレーター熟练操作
- SCUBA シリンダのマークとそれらの意味
- 耳抜とそれに伴う問題
- アルキメデスの原理
- BCの正しい使い方
- 水中視界
- 私たちのエリアの潜水環境
- 減圧症
- 海での傷のファーストエイド
- オープン・ウォーター・クラスの最初のセッションで使用される同意/ウエイバーのステートメントと医療アンケート

## インストラクターとクロスオーバー講義トピック

インストラクター・インスティテュートの準備をする候補者は、下記のリストからの最終の試験30分間プレゼンテーションを割り当てられる。インスティテュート・ディレクターは、インスティテュートに先立ちトピックを割り当てる。このプレゼンテーションは、あなたができる最善のものであるべきであり、視覚教材、プリント類等の適切な教材を駆使して行うべきである。講義時間は少なくとも25分以上で35分を超えてはならない。

エントリー・レベル・コースでは、下記のトピックは30分以上時間が必要かもしれない。が、内容を主題の30分の部分に制限して説明する。このプレゼンテーションの計画については、「Diving Fundamentals for Leadership」を参照。

あなたのアウトライン/ティーチング・ノートのコピーを、プレゼンテーションの初めにスタッフ・エバルエーターに提示する。エントリー・レベル・スクーバ受講生を対象に資料を作成する。2項目の追加の15分間講義のトピックがインスティテュート・セッションにディレクターから割り当てられる。下記は割り当てられるトピックの例。

- 肺の過膨張問題
- 減圧症と理論
- 反復潜水表
- ボイルの法則とスクイズ
- 真水生物と海洋生物
- 危険な海洋生物
- 呼吸と循環
- エアー切れ緊急
- 海の傷のファーストエイド
- スキューバ事故の取り扱い
- タンク、バルブおよびレギュレーター
- 天候—波—流れ—視界
- BCDとその使用
- バディ・システム潜水と水中コミュニケーション
- エントリー・レベルのためのスクューバ・コース・オリエンテーション
- 潜水計画

## 典型的なトレーニング進行

### オープン・ウォーター・ダイバーからスクーバ・インストラクターへの道

このガイドは、エントリー・レベル・ダイバーからインストラクターへの道筋である。  
ここに示した道は、平均的過程である。

1. オープン・ウォーター・ダイバー・コース	3 - 12 週
2. オープン・ウォーター・トレーニング・ダイブ	1 週末
3. オープン・ウォーター・プラス-2 ダイブ	1 週末
4. アドバンスド・ダイバー・プラス	2 - 3 週末
5. 20 回のログ・ダイブ	6 - 8 ヶ月
6. S E I マスターダイバー・ 10 ダイブ	8 - 15 週
7. CPR コース	1 日
ファーストエイド・コース	1 日
DAN 酸素供給法 / A S H I 酸素供給法	4 - 5 時間
8. DRAM 救助ダイバー・コース	1 週末
9. オープン・ウォーター・クラスのアシスト	8 - 12 週
10. ダイブマスター・コース	2 - 4 週
11. 2 回の認定コースのアシスト	8 - 20 週
12. アシスタント・インストラクター・コース	3 - 4 日
13. アシスタント・インストラクターとして S E I インストラクターをアシスト	6 ヶ月
14. インストラクター・インスティテュート に参加する前に最低60回のログ・ダイブ インストラクター認定には最低100ダイブ	
15. インストラクター。インスティテュート・トレーニング に参加	3 - 4 日

Leadership Pre Manual No1  
SEI Diving Instructor Trainer  
安永周二 訳  
1/16/2009